



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯科病院長 榎 宏太郎

今年も、もう12月の半ばとなり、気ぜわしいこの頃となりましたが、皆様におかれましてはご健勝のことと拝察申し上げます。ご存知のように、1989年1月8日に始まりました平成も来年の4月30日にて終わり、5月1日から新しい元号となります。



歯科病院長として2013年から毎年12月号の巻頭言を書かせて頂いておりますが、過去にどのようなことを話題にしてきたのか振り返りますと、収支改善の意義と医療の質を評価する必要性(2013)、境界のない医療へ向けて、頭頸部腫瘍センターの発足(2014)、先進的歯科医療と臨床教育の乖離(2015)、歯科診療における失敬導入の必要性(2016)、卒後教育に必要な知的好奇心の賦活(2017)、となっております。

いずれの内容も、歯科病院における診療や臨床教育で感じた問題点や未来に向けたその改善案を正直に書かせて頂きました。改革は未だ道の半ばにも至っておらず深く反省させられますが、年末の良きところは新年への希望を抱けるところでもあります。

新元号となる来年への願いは何かと問われれば、『新しい時代を牽引するイノベーションの創出』です。暗記だけで終わらずに歯科に対する知的好奇心を高め(教育)、もっと早くしっかりと治す治療法を求め(診療)、歯科医学の新たな価値を示すよう貢献する(研究)、という基本的な姿勢を貫き、臨床における様々な問題点を解決するための大きな戦略は、この「イノベーション」ではないでしょうか。

実現性のない夢でも構いません。日常の現場で、○○が出来ればいいなあ、という想いを大切にされて下さい。そして、その実現に向けたキーワードは、他領域の先進技術の導入であり、グローバルな他大学や企業との共同研究体制の構築です。今までにない社会的価値の創造は、技術や発想を組み合わせることで可能となります。

口腔内で得られる様々なデータをもとに現在の歯科医療の枠を超えるような社会的価値を生み出すことを一緒に考えましょう。

以前にも何度か述べさせては頂きましたが、なかなか伝わりにくく、イメージしにくいかもしれません。来年は、自らその具体例を示そうと心に期しております。どうぞ、良いお年をお迎えください。

マダガスカル口唇口蓋裂医療協力報告会が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

平成30年度昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力活動が、去る9月12日から29日まで、医学部形成外科学講座 土佐泰祥准教授を団長とする16名(学生4名を含む)の派遣団により、マダガスカル共和国アンツィラベにあるクリニックアヴェ・マリアで行われました。協力活動は今回で8回目になり、昨年よりも多い24件の手術を無事に終了しました。

その報告会が、11月20日(火)午後6時から大学病院の臨床講堂で開催されました。宮崎国際交流センター長の開会の辞で始まり、小口勝司理事長、笹川記念保健協力財団の紀伊國献三最高顧問の挨拶がありました。土佐先生の概要説明に引き続き、学生(歯学部からは5年生の家泉裕香さん)、歯科医師(歯科矯正学 中納治久准教授)、看護師(藤が丘病院 佐立英樹さん他)、医師(麻醉科学講座 玉崎庸介先生)の順番でそれぞれの立場からの報告がありました。看護師の石井茉莉絵さんは4年前に学生として参加し、再訪問となりました。今回は形成外科の留学を経て帰国されたニジーナ マンジャーノ先生が大変な協力をしてくれたようでした。

昨年に引き続き山本晋也監督が取材班として同行し、現地の手術や子供たちの様子などを数分に編集した動画が紹介されました。今後BS放送で放映される予定です。小出学長の総括のあと、小川医学部長の開会の辞で報告会を終了しました。

中納先生のご尽力でマダガスカル唯一の歯学部であるマジェンダ大学と学部間交流協定締結が無事に終了し、昨年度に引き続き今年も本学に留学生を迎えています。現地の人材育成には時間がかかりますが、健全な口腔機能の育成を目標に長期の視野にたって協力活動を継続したいと思います。今後とも関係者のご支援を宜しくお願い申し上げます。



マダガスカル口唇口蓋裂医療協力活動に参加しました

歯科矯正学講座 中納 治久

2018年9月12日～29日、第8回昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力に参加してきました。今回の活動は、1)術前資料採得(顔面・口腔内写真、上顎の印象)を行いつつ、学生教育を実践する、2)術前・術後回診にて歯磨き指導等の口腔ケアを行う、3)マジェンガ大学との学部間協定締結後の話し合いをする、4)マダガスカル国内に口唇口蓋裂に対しての集学的チーム医療を実践できるよう、専門医(矯正歯科医、口腔外科医)を育てることで。

さて、唇顎口蓋裂患者に対して口唇・口蓋形成手術を行うことは、哺乳障害、審美的な問題、鼻咽腔閉鎖機能と言語障害などを改善するためにとっても重要です。しかし、術後に形成される瘢痕が原因で、上顎の発育障害が起り、歯並びやかみ合わせが悪くなります。そこで、形成外科的手術後には、矯正治療が必要となります。しかし、長期に渡る矯正治療を、我々日本の矯正歯科医が現地で行う事は不可能です。そこで、現地の歯科医師を教育し、現地のスタッフによる矯正治療を可能にすれば継続的な医療貢献に繋がると考えました。私が初めてマダガスカル口唇口蓋裂医療協力に参加した2016年、Clinic AveMaria から 759km 離れたマジェンガ大学歯学部、陸路で片道1泊2日掛けて訪問しました。その際、昭和大学歯学部との学部間協定の申し入れを行いました。遂に本年(2018年)1月24日、歯学部間協定が締結されました。その結果、4月から3年目のレジデントである Mariette Rakotoson 先生が、1年間の予定で昭和大学歯科病院矯正歯科において研修を行っています。さらに、9月24日(月)には、現地でマジェンガ大学歯学部学部長 RASOAMANANJIARA Jeanne Angelphine 教授、および矯正歯科の Randrianarimanarivo Henri Martial 教授の訪問を受けました(写真)。両先生には、医療協力の現場を見学して頂くと共に、昼食を共にしながら今後の関係を強化していくことを確認しました。昭和大学口唇口蓋裂センター(SCPT)で培ったチーム医療をマダガスカルで実践できるよう、出来るだけサポートしたいと考えています。

「人は運命に流される。が、不運に思えるようなその運命の中にさえ大きな意味を見いだすことがある。」曾野綾子先生の言葉です。この医療協力に参加して、「矯正歯科医としてマダガスカルの口唇口蓋裂医療に貢献する」と意気込んでみたものの、矯正治療に必要な器具・器械が無ければ処置は何も出来ず、自分の無力さを感じることになりました。その反面、何も無いところから、何かを生み出す努力をする、という事を学びました。「医療で貢献する」つもりが、「マダガス

カルから教わった」のです。自分なりに、貢献できることを探し、様々なプロジェクトを考えてみましたが、少しは「神の僕」として役に立ったのでしょうか。



JADR 学術奨励賞を受賞しました

大学院4年(口腔外科学講座) 瀧本 玲子

平成30年11月17日、18日に北海道大学にて第66回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会が開催されました。JADR は国際的視野にたち歯科医学および関連分野の研究促進を図り、口腔保健の向上に寄与することを目的としている学会です。私は「Zoledronate promoted the expression of inflammatory cytokines in CD14+ cells in human peripheral blood mononuclear cells and inhibited their differentiation into osteoclasts」の演題で発表致しました。研究目的はZOL製剤の副作用である急性期反応の標的細胞の特定や破骨細胞への新たな作用機序の解明です。今回、初めてのポスター発表で大変緊張しておりましたが、英語での二次審査を受け、JADR/GC 学術奨励賞を受賞することができました。身に余る評価を頂き大変恐縮しております。今回、JADR に参加し、他大学の先生方や大学院生とも研究について議論できたことはとても有意義な時間となりました。また研究室の皆様には発表にあたり英語の発表練習など多くの時間を費やしご指導いただき大変感謝しております。これまでご指導下さった口腔外科学講座の代田達夫教授、口腔生化学講座の上條竜太郎教授はじめ多くの先生方にご協力頂きましたことをこの場を借りて心より感謝を申し上げます。今後もさらに歯学研究に精進していきます。



CBT が実施されました

CBT 委員長 荒木 和之

12月12日(水曜日)に、平成30年度共用試験 CBT が実施されました。このところ急に真冬の寒さになり心配していましたが、受験を希望していた4年生106名は遅刻や欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前8時40分に集合し、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこない、最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT 事前説明会やCBT 体験テストの経験もあって、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は、中村先生(副実施責任者)、鈴木先生(副実施責任者)、坂井先生(サイトマネージャー)、学務の係員と私が担当しました。試験監督は午前・午後各3名のべ6名の体制でおこない、基礎系の先生方をお願い致しました。

当日は共用試験実施評価機構から鶴見大学の里村教授、東京医科歯科大学の池田教授がモニター委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、受験態度や実施状況など概ね良好でしたとのコメントをいただきました。

CBT 実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

D3地域連携歯科医療実習と報告会が実施されました

地域連携歯科学部門 丸岡 靖史

<地域連携歯科医療実習 II >は、平成26年度から必修化され、今年で5年目です。10月から12月にかけて、3期に分けて約100名の歯科医師会の先生に学生の指導をお願いしています。今年度12月20日に報告会が実施されました。当日は、宮崎歯学部長の挨拶の後、実習の総括、10時から東京都歯科医師会山崎一男会長の講演が行われ(写真)、口腔機能低下症、オーラルフレイル、歯科医師会についてお話しいただきました。その後学生は、各班に分かれてPBL室で各自作成した発表スライドのブラッシュアップを行いました。発表会では、指導歯科医院の先生も参加していただき、10数名の学生がスライドを用いて発表し、22人の指導歯科医院の先生を含めての活発な討論を行いました。

実習終了後、指導歯科医院の先生との意見交換会が行われました。学生のモチベーションの向上、コミュニケーション教育の場、将来の歯科医師像を考える場になっているなどの実習の意義を多くの先生が感じられており、かなり情熱を傾けて指導していただいていることがわかりました。その後入院棟17Fのタワーレストラン昭和で学生も参加しての懇親会は盛況

で、指導医との懇親を一層深めることができました。

本実習では、1年時<地域連携歯科医療実習 I>、3年時<地域連携歯科医療実習 II>、5年時では、病院歯科実習(昭和大学病院・藤が丘病院・烏山病院・横浜市北部病院・江東豊洲病院)で周術期口腔機能管理を含めての、急性期・回復期での歯科の対応や多職種医療連携を学習してから、<地域連携歯科医療実習 III>で在宅歯科医療での慢性期の対応、地域包括ケアに関して学習しております。本実習の遂行には、教育連携協定を締結している山梨県歯科医師会・東京都歯科医師会・神奈川県歯科医師会・各地区歯科医師会の先生に大変お世話になっております。今後とも歯科医療の発展、将来の人材育成のため、学生教育へのご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



Joseph Lister Award を受賞しました

歯学部4年 植田 紫衣生

平成30年11月17日・18日、北海道大学にて第66回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会が開催されました。私は「Sucrose suppressed osteoclast differentiation」の演題でポスター発表をしました。幸運にも2018 JADR/Joseph Lister Awardを頂くことができ、大変嬉しく、また光栄に思います。他大学の先生方とも研究について議論することができ、たくさんの刺激を受けることのできた貴重な経験となりました。今回、ご指導・ご協力いただきました口腔生化学講座の上條竜太郎先生、吉村健太郎先生、笹清人先生、講座の皆様、そして多くの協力して下さった方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



第二延山小学校・清水台小学校の校外授業を行いました

歯科理工学部門 片岡 有

11月12日月曜日に第二延山小学校第5学年および清水台小学校第6学年に校外授業を行いました。本学で平成24年度より地域連携の一環として全学部を挙げて行っている取り組みです。小グループに分かれて各学部の仕事内容の一端を体験します。歯学部は「口の機能と歯科医体験」として、人工歯のう蝕除去とコンポジットレジン充填を行いました。小児育成歯科学講座の杉山智美講師の歯・口腔の役割、う蝕の成り立ちと予防の説明の後に、エアタービンハンドピースでの人工歯切削、その後にコンポジットレジン充填を行いました。

参加した小学生は説明に熱心に耳を傾けて問いかけに対しても手を高く上げて応えていました。歯の切削の時は少々緊張しているようでしたが、初めて触る歯科用器具を手にして充填後に光照射でレジンが硬化した時には大変興奮していました。中には上手に充填操作を行い何なりと課題をやったのける小学生もいて私たちも驚かされました。一つ一つに興味を持って取り組んでいる姿が新鮮で、彼らにとって歯科医師も将来の選択肢の一つになれば幸いです。



行事予定

広報委員長 中村 雅典

1月19日(土)20日(日) センター入試

1月24日(木) 選抜I期・センター利用I期入試

大学院春季I期入試が行われました

大学院歯学研究科長 高見 正道

平成31年度大学院歯学研究科春季I期入学試験が12月1日(土)、旗の台キャンパス4号館6階600号講義室にて実施され、午前9時より外国語試験、午後1時より専門科目の口頭試問および面接が行われました。今回の志願者は、社会人特別選抜6名、一般選抜1名の計7名で、12月20日に行われた合格発表では、これら7名が全員合格しました。次回の春季II期入試は、平成31年2月16日(土)に行われます。出願期間は平成31年1月8日(火)~2月1日(水)となっており、受験希望者は学事部大学院係に出願書類を提出してください。一人でも多くの受験を期待しております。

全国医歯薬獣大学柔道大会で準優勝しました

口腔リハビリテーション医学部門 高橋浩二

2018年12月15日全国医歯薬獣大学柔道大会が世界の柔道の中心である講道館で行われました。歯学部6年生杉下健太郎君が率いる昭和大学柔道部は団体戦(5名)で昨年に続く二連覇を目指し、予選リーグを順調に1位で通過しました。決勝トーナメントも順調に勝ち進み、決勝戦に進出し、二選手が鮮やかな一本勝ちを決め、有利に試合を進めましたが、僅差で敗れ、準優勝となりました。連覇は逃しましたが、素晴らしい試合内容でした。



認定医取得

広報委員長 中村 雅典

日本障害者歯科学会 認定医

口腔衛生学 助教 村上浩史

小児育成歯科学 助教(歯科) 松島 瞳

編集後記

口腔生化学講座 吉村 健太郎

年末のお忙しい中ご寄稿くださり誠にありがとうございました。平成最後の年は私にとって激動の一年でした。たくさんの先生方にお世話になり、感謝しております。来年が皆様にとって幸多い一年になりますようお願い申し上げます。